フルオーケストラ幕末時代オペラ

歌劇 幕臣・渋沢平九郎



渋沢平九郎
（渋沢栄一記念館）

幕末の混沌とした日本。たくましく生きていた平九郎と兄弟・従兄たちにも時代の嵐が吹き荒れた！
深谷の農民から幕臣となり、越生に散った幕末の若武者・渋沢平九郎が、兄の尾高惇忠と長七郎、従兄の栄一や成一郎たちと駆け抜けた幕末動乱期を、史実をベースに描き出す青春群像歌劇（オペラ）。

■主人公と主な登場人物■

【渋沢平九郎（尾高平九郎）】
深谷市出身の幕臣。尾高惇忠と長七郎の弟、渋沢栄一と成一郎の従弟。栄一がパリに渡欧する際に、平九郎を見立て養子としたため、渋沢平九郎となる。惇忠らと彰義隊、振武軍に参加して飯能戦争を戦うが敗戦。深谷を目指して逃走中に越生にて敵兵と遭遇し応戦するも負傷。自らの最後を悟り、腹を切り自決。享年22（満20歳没）

【尾高惇忠】　尾高家長男。幼い頃から学問に秀で、栄一や近郷の若者に学問を教える。
【尾高長七郎】尾高家次男。高崎城乗っ取りを企てる栄一たちを命がけで説得する。
【渋沢成一郎(喜作)】彰義隊を結成し頭取に就任。のちに振武軍を結成し頭取となる。
【渋沢栄一】　尊王攘夷思想に目覚め、惇忠・成一郎と高崎城乗っ取りを計画。
【天野八郎】　幕末期の幕臣、彰義隊副頭取。頭取・成一郎との間に路線対立が起こる。
【ゆき】　平九郎の幼馴染。生活が厳しい中、貧しさゆえに江戸に売られてしまう。
【助左】　尾高家に代々仕える使用人。平九郎が生まれた時から見守り支え続ける。

■見どころ■

深谷、飯能、越生・・・。何度も何度も平九郎の足跡を辿り、この物語のために書き下ろされた脚本は、幕末当時の農民の苦しみや、兄弟と従兄たちを信じて、ひたすらに義を貫いた平九郎の純粋さを鮮やかに描き出しています。

幸福だった頃に幼なじみと一緒に歌ったわらべうた、次第に緊張が高まっていく高崎城乗っ取り謀議、彰義隊への参加と決別そして飯能戦争、平九郎を慕う幼なじみの想いなどが、平九郎が最期を迎える黒山のシーンへとセリフを歌にのせて繋がっていきます。

様々な場面を、時には哀しく、時にはダイナミックにプロのオーケストラが奏でます。照明や音響による演出効果や時代考証を経た幕末衣装もお楽しみいただけます。

■主演・スタッフ■

出演者80名、スタッフ40名　総勢120名

■公演日程・会場■

2027年1月28日（木）深谷市民文化会館 大ホール
①10:00～11:30　②14:00～15:30（2回公演）
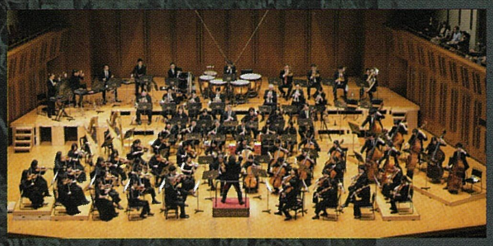
■過去の公演実績■

2021年2月6日	深谷市民文化会館	助成：埼玉県文化振興基金（300万円）
2021年12月11日	飯能市市民会館	助成：文化庁補助対象事業（2,500万円）
2022年12月11日	狭山市市民会館	助成：文化庁補助対象事業（1,500万円）



指揮者：河合尚市

東京藝術大学卒業。劇団四季（ミュージカル『オペラ座の怪人』日本初演、『ウエストサイド物語』）、東京混声合唱団をはじめ、全国各地の主要な交響楽団や日本音楽集団等と幅広く共演。また、日本屈指のバレエ指揮者として、松山バレエ団、谷桃子バレエ団、日本バレエ協会など、日本を代表するバレエカンパニーの公演を数多く指揮。2005年～2020年は尚美学園大学教授として後進の指導にあたり、現在は同大学名誉教授。戸田市文化芸術推進審議会委員も務める。第4回「浜松ゆかりの芸術家顕彰」、2026年に下總皖一音楽賞受賞。



管弦楽：パシフィックフィルハーモニア東京

1990年設立。定期演奏会等の自主公演を軸に、音楽鑑賞教室、オペラ、バレエ、レコーディング、放送出演など、多岐にわたる演奏を展開する。POPS、映画、アニメ、ゲーム音楽のコンサートにも積極的に取り組み、多彩なジャンルのアーティストと共演の場を広げている。2022年、飯森範親の音楽監督就任とともに楽団名を改称。子供達に音楽を届ける取り組みを大切な活動指針とし、多数の奏者が呼吸を合わせ一つの響きを創り上げるオーケストラならではの調和の姿を伝えることを命題に、地域や教育の現場に寄り添い、日々の演奏を地道に積み重ねている。



渋沢平九郎：加護友也（テノール）

昭和音楽大学卒業後、同大学院修了。声楽を森岡憲昭、井ノ上了吏各氏に師事。《ラ・ボエーム》ロドルフォ役《こうもり》アルフレード役《カルメン》レメンダート役等でオペラに出演。その他オペラ公演にアンサンブルやアンダースタディとして参加。モーツァルト《レクイエム》ロッシーニ《スタバト・マーテル》プッチーニ《グローリア・ミサ》など宗教曲の各テノールソロも務める。現在、関東圏を中心に活動中。



尾高惇忠：根岸一郎（テノール）

武蔵野音楽大学声楽科、早稲田大学文学部仏文学科卒業。パリ第Ⅳ（ソルボンヌ）大学修士過程（比較文学）修了。アンリ・ソーゲ国際コンクール、日仏声楽コンクール、フランス音楽コンクールに入賞。演奏活動は幅広く、特にフランス近代歌曲での評価が高く、日仏声楽コンクール審査員を務める。ヴォーカル・アンサンブル・カペラなど中世・ルネサンス音楽の分野で多くの演奏、録音に参加。オペラへの出演も、トマ「ミニョン」、マスネ「マノンの肖像」、ドビュッシー「アッシャー家の崩壊」、「歌劇 幕臣・渋沢平九郎」など初演作を含んで多彩である。伊福部昭氏の作品に深く傾倒、全歌曲、全団体歌を演奏、CDを制作した。東京室内歌劇場、コンセール・C他会員。



尾高長七郎：上田誠司（バリトン）

武蔵野音楽大学卒業、及び同大学院修了。第43回イタリア声楽コンコルソ入選。2013年からイタリアのミラノに留学。その年の夏ペーザロにてアカデミアロッシニアーナに参加し、「ランスの旅」でドン・アルヴァーロを演じ、好評を得る。その他「椿姫」「愛の妙薬」「フィガロの結婚」「コジ・ファン・トゥッテ」「ドン・ジョヴァンニ」「チェネレントラ」「トスカ」「ラ・ボエーム」「こうもり」「トロヴァトーレ」「道化師」「カルメン」等、数々の役を多彩に演じる。また「第九」等のソリストも務める。藤原歌劇団団員。青森県出身。



天野八郎：井出壮志朗（バリトン）

神奈川県出身。武蔵野音楽大学修士課程修了。第27回奏楽堂日本歌曲コンクール歌唱部門第2位、第47回イタリア声楽コンコルソシエナ大賞(第1位)、第17回東京音楽コンクール第3位(1位なし)、第55回日伊声楽コンコルソ入賞など、多数の賞を受賞。藤原歌劇団公演等の多くのオペラに主要なキャストで出演し、好評を博している。その中でも特にモーツァルト、ドニゼッティ、ベッリーニ作品においてその才能を高く評価されている。その他、宗教曲や交響曲等のソリストも務めている。そして日本のオペラ、歌曲にも重点を置いて取り組んでおり、この「歌劇 幕臣・渋沢平九郎」公演にも初回の公演より天野八郎役で出演し存在感を示している。藤原歌劇団団員。



渋沢成一郎：田中俊太郎（バリトン）

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業、同大学院博士後期課程修了。大学院では日本の音楽作品の研究に取り組む。声楽を森山秀俊、福島明也、G・ピリウォッチ、林康子の各氏に師事。オペラ、宗教策分のソリストのほか、NHK連続テレビ小説『エール』、NHK『うたコン』などメディアやエンターテインメントの舞台にも出演。三菱地所賞受賞。関東学院大学、東京藝術大学附属音楽高校非常勤講師。出雲観光大使。



渋沢栄一：原田勇雅（バリトン）

埼玉県熊谷市出身。県立熊谷高校、東京藝術大学卒業。同大学院修了。博士号（音楽 DMA）取得。文化庁在外研修員として渡伊。イタリア国立パルマ音楽院大学院課程を最優秀の成績で修了。イタリアにおける歌曲研究においても博士号（Ph.D.）取得。全日本学生音楽コンクール（大学・一般の部）全国大会第Ⅰ位。日本放送協会賞を受賞。NHK-FM出演。イタリア声楽コンコルソ第Ⅰ位、シエナ大賞。友愛ドイツリートコンクール第3位、聴衆賞。モンテカティーニ国際オペラコンクール（オペラ部門）優勝。ペリッツォーニ国際声楽コンクール第３位。ローマ国際オペラコンクール「RISING TALENT」第Ⅰ位。ほか多数の音楽賞を受賞。2024年、下總皖一音楽賞受賞。



ゆき：田井友香（ソプラノ）

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。同大学院音楽研究科修士課程オペラ専攻修了。学部3年次に安宅賞、卒業時に同声会賞を受賞。オペラでは《フィガロの結婚》伯爵夫人、《リゴレット》ジルダ、《愛の妙薬》アディーナ、《ラ・ボエーム》ムゼッタ、《カルメン》ミカエラ等を演じる。またソリストとしてベートーヴェン《第九》、ヘンデル《メサイア》、バッハ《カンタータ》等に出演。第28回松方ホール音楽賞（歌曲・オラトリオ部門）、第33回市川市新人演奏家コンクール最優秀賞等多数上位入賞。現在はフリーの声楽家として演奏活動や後進の指導にあたるほか、小学校非常勤講師として教育活動にも取り組んでいる。洗足学園音楽大学演奏補助要員。